

条約改正.2

名前

解答

解答

問1 帝国主義とは何か。

(自国の軍事力や経済力を使って勢力を海外に広げ、経済的・軍事的に支配しようとする動き)

問2 日本が欧米と国際的に対等な地位を得るうえでは、不平等条約の改正が最も重要な課題だった。条約改正にいち早く応じた国はどこだったか。

(アメリカ)

問3 明治時代、日本は不平等条約を改正しようとした。その中で、欧米の制度や文化を取り入れて日本を近代的な国に見せることで、条約改正を目指した外務卿は誰か。

(井上馨)

問4 明治時代、不平等条約の改正を目指して、外国人を接待するために洋風の建物が東京に建てられた。ここでは舞踏会(ダンスパーティー)などが開かれ、日本の近代化をアピールしようとした。この建物の名前は何か。

(鹿鳴館)

問5 明治時代、日本は不平等条約の改正を目指して、政治や文化・生活の面でヨーロッパの風習や制度を取り入れようとした。このように、日本を「西洋風の国」に見せようとする政策を何というか。

(欧化政策)

問6 1886年、日本の近海でイギリス船が沈没し、日本人乗客が全員死亡した事件が起きた。この事件について、以下の設問に答えよ。

(1)この事件は何か。

(ノルマントン号事件)

(2)この事件は、日本国内で不平等条約への不満を高めるきっかけとなった。これはなぜか。

(イギリス人船長に軽い罰しか与えられなかったから)

(3)この事件では、外国人が本国の法律に基づいて裁判を受ける権利が問題となった。この権利は何か。

(領事裁判権)

問7 日本が領事裁判権の撤廃に成功したときの外務大臣は誰か。

(陸奥宗光)

問8 日本の関税自主権が完全に回復したときの外務大臣は誰か。

(小村寿太郎)

問9 次の出来事を古いものから順に並べよ。

(A→B→C→D)

A:日朝修好条規が結ばれる。

B:ノルマントン号事件が起こる。

C:日英通商航海条約が結ばれ、領事裁判権が撤廃される。

D:関税自主権が完全に回復される。

